

第74回全日本大学バスケットボール選手権大会 参加報告書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第74回全日本大学バスケットボール選手権大会				
●日程	令和4年12月6日 (火) ~ 令和4年12月7日 (水)				
●会場	大田区総合体育館				
●講師	なし				
●スケジュール	令和4年12月6日 (火)				
	16:00 審判控室集合・更衣・ウォーミングアップ 16:45 PGC 17:15 コートin・コートインスペクション 17:30 ゲーム開始				
●担当試合	対戦カード	富士大学(東北2位)		VS	愛媛大学(四国2位)
	CC	蒲氏(東京)	U1	北村	U2 平山氏(栃木)
	講師/主任	なし			
	講評	<p>クルーで試合後にMTを行った。 両チームとも予選リーグ敗退が決まっているうえでの今大会最終戦であったが、4年生にとって最後の試合となるので、普段通り大切にゲームを進めていくことができた。 明らかなものを落ち着いてコールにつなげることができたので、おおよそゲームコントロールを失うことなく、進めることができた。 試合終盤で起こったUF(C3)についても、プライマリが判定することができてよかった。</p>			
自己の感想	<p>普段通り、落ち着いて取り組むことができたと思う。 PGCからオンザコートまで、蒲氏の落ち着いた振る舞いが非常に参考になった。 選手やTOともコミュニケーションを取りながらゲームを進められたことは、自分自身の課題にアプローチできたと思う。 CCMの発揮も、自分自身の課題の1つであるが、プライマリア外で起こった明らかなバイオレーションをコールできたことはよかった。</p>				
●スケジュール	令和4年12月7日 (水)				
	14:00 審判控室集合・更衣・ウォーミングアップ 14:45 PGC 15:15 コートin・コートインスペクション 15:30 ゲーム開始				
●担当試合	対戦カード	明治大学(関東11位)		VS	日本経済大学(九州1位)
	CC	緒方氏(東京)	U1	北村	U2 佐藤氏(東京)
	講師/主任	なし			
	講評	<p>PGCでは、メカニクスを大切にしつつ、明らかなケースに落ち着いて確実に笛を入れていくことを目標とするように、緒方氏からお話し頂いた。 試合後はクルーでMTを行った。 おおよそ落ち着いて判定できていたが、ファウルやバイオレーションが起こりそうなシチュエーションで、何度か手が上がりかけては下ろすといった仕草が見られたので、笛を入れようと決断するまでは、手を下ろした姿勢でいるようにアドバイスを頂いた。 TFに繋がったケースでも、選手の声に耳を傾けながら、異論表現についてはストップサインを出すことも考慮に入れつつ、コールに繋がっていくとよかったとお話し頂いた。</p>			
自己の感想	<p>前日よりゲームレベルが上がったが、プライマリア内で起こるプレーについては、概ね落ちついて判定できたと思う。 しかし、前述にもあるTFに繋がったケースでは、私自身の判定のジェスチャー間違いにより、選手の異論表現を引き起こし、TFに繋がってしまった。 そのシチュエーションが起こる少し前から、自分の中でノイズになっていた事象が、誤った判定の引き金になってしまったと思う。 過ぎたことに意識を向けるのではなく、目の前で起こっていることに集中し、確認すべきであった。 自らの判定の誤りについては、ゲーム中に選手に謝罪し、その後のゲームを進めていったが、1つの誤りで選手やベンチとの信頼関係を失いかねないので、改めてPGCで緒方氏がおっしゃっていた、明らかなケースに落ち着いて笛を入れていくことの大切さを感じた。 最後に、本大会に参加させて下さいました、大阪府バスケットボール協会審判委員会の皆様、本当にありがとうございました。</p>				